

## LINE 株式会社 2019 年第 4 四半期決算発表

2020 年 1 月 29 日

LINE 株式会社（証券コード 東京証券取引所：3938、ニューヨーク証券取引所：LN）は本日 2019 年第 4 四半期決算を発表いたしました。

## 第 4 四半期収益及び事業ハイライト

ユーザー/エンゲージメント指標

- 主要 4 カ国の MAU は、1 億 6,400 万人となりました
  - 第 4 四半期における国内 MAU は順調に拡大し 8,300 万人となりました。これは前年同期比で 400 万人増加いたしました
- 主要 4 カ国の DAU/MAU 比率は 79%となりました
  - 国内の DAU/MAU 比率は 86%と高水準を維持しており、LINE プラットフォームの引続き強固なエンゲージメントを表しております

事業概況及び財務指標

## 全体

- 売上収益は 608 億円(YoY 8.6% ↑ / QoQ 8.7% ↑)となりました
- 営業損失は 115 億円となりました
- 海外売上比率は全体の 29%となりました

## コア - 全体

- 当四半期のコア事業の売上収益は 518 億円(YoY 11.5% ↑ / QoQ 6.8% ↑)となりました
- 営業利益率は 12.8%となりました。前四半期にご案内した通り、年末の季節要因による広告宣伝費の増加のため、利益率は前四半期より 3.9 ポイント減少しましたが、前年同期比では 1.4 ポイント増加いたしました

## コア - 広告

- 広告全体の売上収益は 337 億円(YoY 16.5% ↑ / QoQ 10.4% ↑)となりました
- ディスプレイ広告の売上は 150 億円(YoY 65.4% ↑ / QoQ 19.5% ↑)となりました
  - LINE NEWS 及びスマートチャンネルの広告インプレッションの増加が好調な業績の主な要因となります
  - 当四半期の広告インプレッション数は前年同期比 131.6%増加、前四半期比 23.5%増

加となる 546 億インプレッションとなりました

- スマートチャンネルの動画フォーマットとなる「Talk Head View」の需要が 12 月に特に旺盛となり、大手ブランド広告主を含む幅広い顧客にご利用いただきました。1 月より正式提供を開始し、1 日 1 社限定での配信を行っております
- アカウント広告の売上は 164 億円 (YoY 6.9% ↑ / QoQ 8.9% ↑) となりました
  - 旧公式アカウント換算で、当四半期における国内大手企業によるアカウント新規開設数は 348 件に上り (前四半期の新規開設数: 171 件)、アカウント数が順調に増加しています。リデザイン発表後に新プラットフォーム (従量課金) で新規開設された国内アカウント数は 900 件を超えております
  - 既存の公式アカウントについて従来の定額制から従量課金制への移行も順調に進んでおり、国内では計画通り 2020 年 4 月までに全アカウントの移行が完了する予定です
  - 当四半期より、スポンサードスタンプにも従量課金モデルを導入致しました
- その他広告の売上は 23 億円 (YoY 48.6% ↓ / QoQ 21.2% ↓) となりました

#### コア - コンテンツ/コミュニケーション/その他

- 広告を除くコア事業の売上収益は 181 億円 (YoY 3.2% ↑ / QoQ 0.8% ↑) となりました
- コンテンツの売上は 97 億円 (YoY 0.9% ↓ / QoQ 2.2% ↓) となりました
  - LINE MUSIC 及び LINE マンガの決済高が引き続き堅調に増加しております
- コミュニケーションの売上は 68 億円 (YoY 1.8% ↓ / QoQ 2.6% ↓) となりました
- その他コア事業の売上は 17 億円 (YoY 85.4% ↑ / QoQ 46.2% ↑) となりました
  - その他コア事業には LINE リサーチ等その他サービスが含まれます
  - LINE リサーチは当四半期においてアンケート会員数が 500 万人を突破し、順調に事業拡大しております
- 当四半期では、LINE を使って全国の弁護士に法律相談・依頼ができる「LINE 弁護士相談」や、全国の医師にオンラインで健康相談ができる「LINE ヘルスケア」などの新サービスも提供を開始しております

#### 戦略事業

- 戦略事業の売上収益は 90 億円 (YoY 5.7% ↓ / QoQ 20.7% ↑) となりました。そのうち LINE FRIENDS の売上が 51 億円 (YoY 25.9% ↓ / QoQ 4.7% ↑) を占めています
  - その他の売上は O2O/コマース、Fintech 及び AI 事業で構成されます
- 営業損失は 141 億円となり、前四半期にご案内した 150 億円を下回りました
- 当四半期における LINE Pay のグローバル決済高は 3,550 億円、グローバル MAU は 650 万人となりました。これは前四半期よりそれぞれ 680 億円、1 百万人増加したことになります
- LINE Pay の国内 MAU も 370 万人に増加しました (前四半期 286 万人)

- 大規模なマーケティングに頼らず引続き規律ある投資を実行しながら事業の継続的な成長を達成しておりますが、当四半期においては特に年末クーポンのキャンペーンがユーザー及び決済高の増加につながりました
- 企業から個人への送金を可能にした「LINE Pay かんたん送金サービス」に加え、当四半期より LINE Pay 残高を利用して、法人・個人の銀行口座に振込ができるサービスも開始致しました
- スコアリングサービス「LINE Score」において、サービス開始から約5ヶ月でスコア登録ユーザーが300万人を突破いたしました
- LINEにおけるAIソリューション事業である「LINE BRAIN」では、チャットボット技術、文字認識技術、音声認識技術などのAI技術に関して、外部企業への提供を開始しました

## その他財務補足情報

- 決済手数料及びライセンス料は95億円(YoY 15.8%↑/QoQ 2.5%↑)となりました
- 従業員報酬費用は187億円(YoY 21.5%↑/QoQ 5.0%↑)となりました
  - 第4四半期の株価水準により、ESOP(株式給付信託)の費用が増加したことが主な要因です
- マーケティング費用は75億円(YoY 25.3%↑/QoQ 50.4%↑)となりました
  - 第4四半期は年末の季節要因により特にゲーム、O2O/コマース、Fintechにおいてマーケティング費用が増加しました
- 販売手数料は38億円(YoY 22.2%↓/QoQ 6.3%↑)となりました
- 外注費は113億円(YoY 27.9%↑/QoQ 7.4%↑)となりました
  - LINE チラシ、LINE ヘルスケア、LINE 弁護士相談等のローンチ準備に伴い外注費が増加しました
- 減価償却費は64億円(YoY 95.3%↑/QoQ 11.5%↑)となりました
  - サーバーへの継続的な投資及び新オフィスの稼働に伴う償却費の増加によるものです
- その他の営業費用は127億円(YoY 11.0%↓/QoQ 48.6%↑)となりました
  - 増加要因は年度末税金計上に加え、商品売上原価の増加です
  - またシステム開発中止に伴う費用負担金を16.6億円計上しております

その他 2019 年第 4 四半期決算についてのご質問は [ir@linecorp.com](mailto:ir@linecorp.com) にお問い合わせください。  
メディア関係者は担当の PR 担当者にご連絡ください。